

## 令和元年度 第3回行財政改革推進協議会議事録

日 時：令和2年1月24日（金）午前10時00分～11時00分

場 所：役場2階委員会室

出席委員：舩山、多田、神保、田苗、竹田、菅、齋藤

### 議事録

#### (1)第6次行財政改革大綱の策定について

（資料により事務局説明）

委 員 働く場所、住む場所の誘致がこれから重要になってくる。企業誘致など話があった場合にうまく補助金が活用できないか。補助金の見直しとあるが制度の使い方について町民にもわかるような形で周知をしていただきたい。

事務局 補助金については国、県の補助金では要件が厳しいという声があるため、そこを緩和した形で使いやすい制度の設計と周知をしていきたい。

委 員 民間力の活用とあるが民間団体が受け入れできるかが課題である。また図書館の民営化等について公正公明な募集でしっかりとした団体に運営していただきたい。アルカディア財団のバイオマスエネルギーの活用はどのように進めていくのか。

事務局 民間での受け入れ団体の強化がやはり課題となっており、働く方の待遇改善もしていかなければならない。施設管理等も含めてイベント等の委託ができればと思うが人材の確保が重要になってくる。図書館についても施設管理の部分が庁舎と一体となっており、ノウハウのあった団体に入ってもらい効率的な運営ができるように検討していく。アルカディア財団のバイオマス化については、現在、温泉を加熱しているがその方法として運営経費が安くなるバイオマスボイラーを活用できないか検討している。源泉の出が悪くなっており、その部分も含めてトータルとして最も良い方法は何か検討している。

委 員 スポーツイベントの委託とあるが今までは教育委員会が主体となってやってきたと思うが職員としては何人ほどいるのか。またバイオマスボイラーはどのくらいの経費がかかるのか。

事務局 現在13名（スポーツ関係は3名）の職員がおり、委託するとしても職員が0になることではなく、これからも職員が関わっていくこととなる。新庁舎もバイオマスボイラーで暖房を行っており、経済的には灯油よりは安くなっている。白光園でも新しい施設にバイオマスボイラーを導入している。バイオマスチップの工場が白鷹にあり、これから施設等でバイオマスボイラーの需要が多くなった場合、単価が安くなることも期待できる。維持管理の金額も含めて導入について検討をしていく。

委 員 バイオマスボイラーは温泉だけでなく施設全体として活用するのか。

事務局 現在の想定では温泉のみだが宿泊棟等にまで利用するかもこれから検討していく。

委員 建設新聞で鮎貝地区にスポーツセンターの整備という記事があったがどのような計画か。

事務局 第6次総合計画の中で中長期的な政策として、鮎貝地内白鷹スポーツ公園内にスポーツセンターの整備というものがある。財源的な問題もあり、これから整備に向けた調査・検討を行っていくこととしているものである。

委員 コミセンがしっかりとした組織として維持していくために行政からの指導も必要でないか。地域づくり推進交付金についても地域によっては、今まで公民館でしてきたことを踏襲するやり方の地区と新規で新たな事業をする地区などそれぞれであるように感じるので交付金の使い方についてもある程度町から指導してもらえるとありがたい。

事務局 コミセンの推進交付金は自由に使えるものであるが、ある程度のルールは必要である。ハード的なものからイベントに使うなど地域によって特色ある使い方をしてもらいたい。

委員 人口減少により職員の定員は増やすことができないが業務は増えていくため、業務効率化を進めていかなければいけないと思われる。RPAの活用は県内他市町村でも検討・研究しているところが多い。白鷹町もこれから活用して定員内で効率的な運営をしていってほしい。

事務局 職員数も人口減少に伴って長期的にみれば減っていかねばならないと思われる。定型業務の職員をなるべく企画・相談業務などに配置できるようにRPAの導入がどうすれば効率的に進むか検討していく。

委員 今後の数十年の人口減少に合わせた職員数の計画をしているか。

事務局 具体的な人数は想定していないが人口減少が進むなかで職員数だけが変わらないという訳にはいかない。しかしながら、現在のようにアンバランスな年齢構成にならないように計画的な採用は必要と考えている。

閉 会